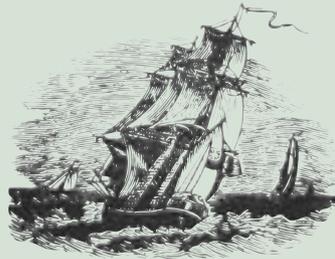


羅針盤



『嵐吹く 世にも動くな人心 巖に根ざす 松の如くに』

松永 佳世子

Kayoko Matsunaga

藤田保健衛生大学医学部皮膚科教授, Visual Dermatology 編集委員

これは、筆者が医学部学生時代に吟じはじめた明治天皇御製の短歌である。昨年2月に副院長になってから、選択を迫られる時、難問に立ち向かう時、独り車の中で愛吟している。

先週「ヘルペスではないか、でも、なかなか治らず拡大してきた」と、40

代の女性が紹介されてきた。口周囲に痒みの強い漿液性丘疹が密集しており、両側の頬、頸部と腹部にも同じような皮疹がある。一目見て「マンゴー皮膚炎」だと確信した。聞くと、1週間前から皮疹がでて拡大しており、皮疹のでる2日前に台湾で皮のついたマンゴーを汁をたらしながら、頬張るように食べたとのこと。また、小さいときに山で漆の木にもひどくかぶれた記憶があった。これで、確定診断。

一瞬にして診断できたのは、知識と経験、毎日の努力があったからだ。マンゴー泥棒は頬張ってマンゴーを食べるために頬もかぶれることを知っていた。マンゴーは果肉がウルシオールとよく似たマンゴールという抗原を含むために、漆にかぶれる人は交叉反応する。これまでに5例以上、同じような症例を経験していた。

「知らないとはずかしい皮膚疾患」は、一瞬にして診断がつく特徴を持つ皮膚疾患であり、その理(ことわり)を理解して皮疹を読めば、二度と忘れることもなく、誤診もすることが少ない疾患といえる。一方、見たことがない皮膚疾患は「どうして?」と考えたこともないわけで、一瞬では答えはでないのうなずける。一瞬にして



確実な診断ができる皮膚科医になることは、いま提唱されている「医療の質」を向上させることになる。私たち皮膚科医は、知らないとはずかしい皮膚疾患をどんどん若い世代に教え、その診断技術を継承し、自らも力を磨き、精度の高い診断力を維持することを誇りにするべきである。

医療費をできるだけかけず、早く、きれいに治すことは、医療の質の高さを示すことである。入院も外来も1人単価が安いために、皮膚科勤務医が低く評価され、モチベーションを落とし、疲弊している時代といわれている。1人当たりの単価をあげることは医療収入や病院経営にとっては好ましいかもしれない。しかし、私たちが目指していくのは、患者さんや国のためになる質の高い医療ではないか。国全体が限られた財源の中で、国民に良い医療と健康を提供するには、医療の質を改善していくことこそが、今なすべきことであり、質の高い医療をできる医師の教育と研鑽である。その質こそが高く評価されてしかるべきなのだ。

激動の時代を生き抜かれた明治天皇の御歌は時代に流されず、巖の如き信念を持って生き抜くと、くじけそうな気持ちを奮い立たせる。医師に重要なのは質の高い医療を提供することであり、他にはない。この Visual Dermatology の特集も、質の高い医療を提供する医師を育てる一翼を担うことができることを願って企画された。